



## イベントは、オーガナイザーの 育てた子供

昨2019年秋という、いささか新鮮味に欠ける話題で恐縮なのだが、筆者はさる10月にイタリアのシチリア島および南イタリアの一部を舞台に開催されたクラシックカー・ラリー「Raid del'Etna」に、コドライバーとして正式参加する機会を得た。

丸一週間で約1000kmという、かなりゆったりとした行程のこのラリー。パレルモ市内の目抜き通りを完全封鎖した会場にて、華やかなセレモニアルスタートとともに開幕したのは、シチリア島北部を走り回り、フェリーを貸し切ってイタリア本土にも足を延ばす。そして7日目には、シチリア・カタニアの旧市街に、満場のギャラリーに迎えられつつグランドゴールという、壮大なイベントである。

ミシュランのイタリア法人が協賛しているためか、毎日のランチ会場には「星つき」のレストランも含まれ、宿泊ホテルもゴージャスなリゾート型。また、シチリア／南イタリアの景勝地や世界遺産級の旧跡にて、連日ガイドつきの観光まで行われるというユニークなもの。さらに特筆すべきは、オーガナイザーの地元であるシチリア州当局の完全支援を受けていることである。観光を含む全行程をポリツィア（警察）およびカラビニエリ（軍警察）の白バイによって常時先導され、たとえ道路が渋滞していても参加車両の優先通行が徹底されたのだ。

とはいえ、イタリアのこの種のイベント、特に大

規模なものでは、こういった扱いは決して珍しいことではない。「Raid del'Etna」が特別なものである最大の要因は、その人情味あふれるホスピタリティにこそあると言いたいのだ。我々日本人エントラントが珍しいせいかもしれないが、主催者であるジョヴァンニ&ダニエラ夫妻は、参加者のファーストネームをちゃんと憶えており、顔を合わせるたびに名前を呼んで「チャオ」と声をかけてくれる。そして、そのアットホームな雰囲気は世界中から集まったエントラントたちにも伝搬し、ふと気づけば朝食から競技の合間、毎夜のディナーまで、一日中あらゆる場所で「チャオ」と挨拶していたのである。

長年世界のラリーに触れてきた筆者の私見では、イベントは主催者の子供のごとく育つように感じられる。ダニエラ夫人曰く「シチリアが好き、人が好き」という思いから生まれ、育ったこのイベントは、まさに彼らの心を反映したものなのだろう。



武田公実 | Takeda Hiromi | 自動車ライター。輸入車代理店やクラシックカー専門店の勤務経験を生かし、自動車専門誌などに寄稿。現在はワクイミュージアムのキュレーションも担当。  
ワクイミュージアム クラシックカーの修理・販売を行うファクトリー。博物館では白洲次郎の愛車などを展示。土・日曜開館。埼玉県加須市大桑2-21-1。http://www.wakuimuseum.com